

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(4月~12月)		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の特性や地域の実情を踏まえながら、単位制の利点を生かしたカリキュラム・マネジメントに取り組む。</p> <p>②生徒の学習意欲の向上を図るとともに、基礎学力の定着と思考・判断・表現力を養うため授業改善の一層の推進を図る。</p>	<p>①単位制である本校の目指すべき姿を全職員で共通理解し、生徒の進路を見据えた教育活動を実践していく。多岐にわたる選択科目を精選し充実させる。</p> <p>②「思考力・判断力・表現力」を培うアクティブ・ラーニング授業について研修し、授業改善をさらに進める。</p>	<p>①本校の生徒の特性を固定化せず、柔軟でかつ充実させた教科・科目を編成していく。生徒の個性を最大限に伸ばす工夫をするとともに、進路を見据えた履修指導を充実させる。</p> <p>②各教科で「思考力・判断力・表現力」を培うアクティブ・ラーニング授業について研修を行い、個々の教員が、授業改善の仮説を立て、授業実践を通して効果を検証する。</p>	<p>①生徒アンケートで、単位制の特徴を活かした授業選択における生徒の満足度が70%以上か。</p> <p>②研修を通じて70%以上の教員が生徒の学習効果を実感できたか。</p> <p>②思考力・判断力・表現力の育成の点で生徒の70%以上が効果を実感できたか。</p>	<p>①3年次生対象にアンケートを実施したところ2、3年次の授業選択について満足・やや満足あわせて93%であった。</p> <p>②7月に外部講師を招き、大学入試改革を見据え、「思考力・判断力・表現力」を培うアクティブ・ラーニングの研修を行った。</p>	<p>①授業選択を決定する時期に進路を決められるように進路指導や履修指導を行っていききたい。</p> <p>②個々の教員の実践を伝え合うことで、新しい視点を取り入れる研修を行ったが、更に教員の経験を共有する機会を工夫して持ちたい。</p>	<p>①授業選択については満足度が大幅にアップしているが、不満だった生徒の救済が必要だろう。</p> <p>②アクティブ・ラーニングの継続的な推進は評価できる。その評価は受検倍率にもつながっているのではないかと。生徒の思考力・判断力・表現力の向上の経年的な効果の測定の方法の検討をしてほしい。</p>	<p>①進路希望が決定していく過程で必要になった科目を選択できない生徒が出た。</p> <p>②アクティブ・ラーニング授業については全体的に見てもかなり進んだ取組ができてきている。今後はICTの活用などアクティブ・ラーニングを補完するスキルにも取り組むことが必要と思われる。</p>	<p>①授業選択と進路希望とのミスマッチを防ぐためにキャリア支援グループとの連携を深めていく。</p> <p>②平成32年度に実施される大学入学共通テストに向けて、生徒に思考力・判断力・表現力を付けさせるためのカリキュラム・マネジメントを確立する。また、学力測定のための新たなテストを導入する。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①部活動の一層の活性化を図るとともに、部活動を通じたリーダーシップ教育を推進する。</p> <p>②教育相談体制をさらに充実させ、組織的な生徒支援を行う。</p>	<p>①部活動において1年次生90%以上、全校で85%以上の加入率を目指す。また、リーダーシップ教育で得た事を実践し、仲間との協働、協力、切磋琢磨を経験し、実績の向上につながる活動ができるようにする。</p> <p>②生活支援グループ、年次団、教科担当者が連携し、職員間の情報共有の徹底を図り、個々の生徒に応じた支援に役立てる。</p>	<p>①4月中の入部を推進し、連休明け及び夏季休業後に退部した生徒も含めた未加入生徒を対象に、生徒会支援グループが年次団と協力し、加入に向けた働きかけを行って加入率アップを目指す。</p> <p>②生活支援グループ会議で各年次生徒の情報及び定期的に行うケース会議の情報を職員間で共有していく場を設ける。教育相談アンケートにより生徒の状況を把握し、いじめ防止に努める。</p>	<p>①部活動の入部率が1年次90%以上、全校で85%以上になったか。</p> <p>②生活支援グループ会議やケース会議での情報交換の内容や教育相談アンケートの結果を職員全体に周知する機会を定期的に設けたか。</p>	<p>①6月の段階で1年次生の入部率は95.1%と高かった。</p> <p>②カウンセリングの結果はその都度教育相談担当者・養護教諭・担任・生活支援リーダーで共有し、必要に応じて年次グループへ情報提供している。生徒の教育相談アンケートの結果を職員全体に周知する予定である。</p>	<p>①長期休業後に退部する生徒が多いので、別の部への入部を勧めるなどの声かけを工夫している。</p> <p>②カウンセリング、教育相談アンケートの結果は生徒のきわめて個人的な相談になる場合があり教員間の情報共有については、常に慎重を期す必要がある。今後、この点に注意しつつ、必要な情報は共有して生徒の指導に生かすよう努めていかねばならない。</p>	<p>①運動部は目立つ、応援も盛り上がる。目立たない文化部のアピールには感謝している。入部率も大事だが、活動内容ももっと大事ではないか。</p> <p>②カウンセリング結果の共有についてはガイドラインやルール作りが必要である。</p> <p>教育相談については、デリケートなものも含め引き続き慎重な対応をお願いしたい。</p>	<p>①部活動加入率は高い水準を維持している。女子サッカー部の関東大会出場や箏曲部の全国大会出場など運動部だけでなく文化部も成果を上げている。</p> <p>②スクールカウンセラーの相談件数は相変わらず多い状況が続いている。カウンセリング後における担任とSCの情報共有はできていないが、生徒・保護者と向き合う姿勢を教員がどれだけ持てるかが課題である。</p>	<p>①途中退部した生徒の別の部への入部を実現するための工夫を摸索していく。</p> <p>文化部の盛んな活動状況も、学校説明会等でアピールしていく。</p> <p>②カウンセリング結果は、どの範囲にどの程度共有が必要であるか見極めながら情報提供していく。各年次に教育相談コーディネーターを配置できるよう研修講座にも積極的な参加を呼び掛ける。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価(4月～12月)		学校関係者評価 (3月15日実施)	総合評価(3月26日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒の課題発見力・課題解決力を高め、キャリア育成を図る。</p> <p>②個々の生徒の進路希望実現のためきめ細やかな支援を組織的に行う。</p> <p>③これからの社会を担い、積極的に社会参加する生徒の能力と態度を育成する。</p>	<p>①キャリア教育の一環としてリーダーシップ教育をさらに推進し、生徒の自己肯定感を高めるとともに、課題発見力・課題解決力を高めるための取組を実践する。</p>	<p>①アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業において生徒がリーダーシップを發揮できる仕組みを、教員研修の実施により組織的に定着させる。また、授業のみならず、学校行事、学級活動、部活動等あらゆる場面で、生徒がリーダーシップを發揮し、目標達成、課題発見・課題解決に活かせるよう支援を行う。</p>	<p>①生徒の80%以上が本校で取り組んでいるリーダーシップ教育の意義を正しく理解し、様々な場面でリーダーシップを發揮できたか。</p>	<p>①教員一人ひとりが、授業において生徒にリーダーシップ發揮を促したことにより、授業がいっそう活性化し、生徒の自己肯定感が高まった。また、校内の他の教育活動にも好影響があらわれた。</p>	<p>①アクティブ・ラーニング活性化のためのリーダーシップの發揮という考え方は大いに有効であるが、教員の効果的な指導の工夫については、今後さらに研修を積み重ねる必要がある。</p>	<p>①生徒主体のアクティブ・ラーニング、リーダーシップ教育が定着している。</p> <p>生徒の自己肯定感が高まったという評価がある点が良い。</p> <p>アクティブ・ラーニングで発信する力をきちんと養う生徒が育つことを期待している。推薦入試にも生かすことができる。</p>	<p>①1年次の必修科目「リーダーシップ入門」が2年間実施されていることで、リーダーシップについては90%以上の生徒に浸透しつつある。AO入試や推薦入試にうまく生かして成功している生徒もいる。</p> <p>アクティブ・ラーニング授業の中で教員が効果的な指導を工夫できているかについてはさらに分析・検証が必要と思われる。</p>	<p>①3年間の研究指定も今年度で終了した。次年度はこの6年間の成果をどのように次のレベルに繋げていけるような取組を推進する。</p> <p>アクティブ・ラーニング授業の研修の継続と生徒がリーダーシップを發揮できる環境をさらに整えていく。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域との協働を推進し、地域に信頼される学校づくりを進める。</p> <p>②ボランティア活動等を通して、地域と連携した教育活動を推進する。</p>	<p>②地域貢献活動の計画的実施と地域連携の一層の推進を図る。また、生徒によるボランティア活動の充実を図る。</p>	<p>②旧モーガン邸の保全活動・土嚢作り・地域清掃を3本柱にした計画をたて、10月実施に向けて準備を整える。</p> <p>②「アジサイまつり」「藤沢宿まつり」等地域イベントへ生徒会役員・ボランティア部・ボランティア委員が、積極的に参加する体制を確立させる。</p>	<p>②生徒によるボランティア活動の参加が、前年度より延べ人数で5%以上増えたか。</p>	<p>②ボランティア活動は昨年同様、積極的な参加状況が見られ、延べで6%の参加者数の上昇がみられた。</p>	<p>②ボランティアへの参加状況は充実している。さらに、一般生徒への参加連絡等を積極的に行っていた。また、成果などを発表する機会を検討したい。</p>	<p>②地域貢献活動での経験が大学の選択理由となったと聞いた。地域住民としてはうれしく思う。小中との三校交流から年齢差のある者との接し方を学ぶことも多いだろう。さらに交流を深めて社会性を伸ばしてほしい。成果発表の機会が必要だと思う。</p>	<p>②ボランティア活動については相当数の生徒が参加するよう指導しているが、該当行事がテスト期間と重なり参加できないこともあった。参加者は増加しているが、小中との交流を含め一般生徒の参加をさらに推進していく必要がある。</p>	<p>②地域の防災活動への参加など、さらに地域の方々との触れ合いを摸索して地域連携を推進する。</p> <p>②生徒会役員や委員会活動・部活動の枠を超えた地域貢献やボランティア活動について一般生徒への周知をさらに徹底させて活性化していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①教育環境の整備に努め、安全安心で、明るい学校づくりを推進する。</p> <p>②事故・不祥事防止を徹底し、職員が前向きに取り組める、風通しの良い職場づくりを推進する。</p>	<p>①施設・設備を含めた校内の教育環境が安全に整備されているよう日常的に取り組む。</p> <p>②入学者選抜・定期テストの際に事故が発生しないよう手順の明確化と情報の共有に努める。</p>	<p>①全教員が、空き時間に輪番で校内巡視を行い、生徒の安全と教育環境の整備に問題がないかどうか点検する。</p> <p>②入学者選抜の際は各担当者同士の連携ミスによる事故が起こらないよう異なる担当者同士の情報共有と相互理解のための打ち合わせを怠らないようにする。</p>	<p>①授業期間中の80%以上の日に点検が実施できていたか。</p> <p>②連携ミスによる事故をゼロにできたか。</p>	<p>①授業時間中の巡回は計画通りに実施できている。</p> <p>②定期テスト実施に際しては実施に際しての注意事項を職員に配付し手順の明確化の徹底を図った。</p>	<p>①巡回や手順の確認が単なるルーティンワークとならないよう緊張感を維持することが大切である。</p> <p>②定期テスト実施に際しては、引き続き手順の明確化の徹底を図る。</p>	<p>①定期的な施設の点検をお願いしたい。</p> <p>安全安心には不断の努力を続けてほしい。</p> <p>先生方は生徒達の日々の活動に対して配慮している</p> <p>②入学者選抜にはたゆまない事故防止の点検をお願いしたい。</p>	<p>①生徒の安心で安全な学校生活を保障し、教育環境の整備を進めるために、職員一丸となって校内巡視を実行している。</p> <p>②定期テスト時の事故防止については、職員の間にもその意義が浸透している。入学者選抜では連携ミスによる事故ゼロを実現できたさらなる取組が必要である。</p>	<p>①生徒の安心で安全な学校生活を保障するため、引き続き校内の巡回指導を実施するとともに、常に点検を怠らないよう職員の意識を維持する。</p> <p>②ミスを事故に繋げないように職員間の連携を強化し、マニュアルの点検・改善を図る。</p>